

令和6年度公共事業再評価調書

担当課名

都市計画課

番号	52																															
事業名	街路事業		事業主体	静岡県																												
箇所名	都市計画道路 <small>としけいかくどうろ たなかあおきせん きぶね こうく</small> 田中青木線(貴船工区)		関係市町	富士宮市																												
事業採択年度	令和 2 年度	計画期間	令和2年度 ~ 令和11年度																													
用地着手年度	令和 2 年度	工事着手年度	令和 - 年度																													
再評価理由※	事業採択(R2)後5年間に経過した時点で継続中の事業																															
全体事業費	百万円	投資状況 (百万円)	~R4年度	R5年度	R6年度見込																											
	3,300		579	229	140	計 948																										
事業概要	<p>(1)事業目的</p> <ul style="list-style-type: none"> 整備路線に平行する県道は、幅員が狭く、踏切もあるため渋滞が発生するとともに、歩行者等の通行が危険な状況である。 市街地を東西に通過する鉄道を跨ぎ、環状道路の一部を担う本路線を新設バイパスで整備し、南北分断の解消や市街地の交通の円滑化、歩行者・自転車の安全確保を図る。 <p>(2)事業内容</p> <p>施工延長： 338 m 道路幅員： 24 m</p> <p>道路工： 205 m 車線数： 2 車線</p> <p>橋梁工： 133 m</p>																															
【視点1】	<p>(1)事業を巡る社会経済情勢等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度、富士山世界文化遺産登録10周年を迎えた。 富士宮市の観光交流客数は、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、令和2年度に大きく減少したが、その後は回復傾向にあり、今後はインパウンド需要も見込まれる。 <p>(2)事業の投資効果</p> <p>○費用便益分析結果 (令和 6 年度時点)</p> <table border="1"> <tr> <td>B/C (i=4%)</td> <td>参考:B/C (i=2%)</td> <td>参考:B/C (i=1%)</td> <td>EIRR</td> </tr> <tr> <td>1.8</td> <td>2.8</td> <td>3.7</td> <td>7.3%</td> </tr> </table> <ul style="list-style-type: none"> 総便益 (B) 51.9 億円 (走行時間短縮便益 41.86億円、走行費用減少便益 8.59億円、交通事故減少便益 1.48億円) 総費用 (C) 28.6 億円 (建設費：28.79億円、維持管理費：0.15億円、用地残存価値：0.38億円) <p>○見込まれる効果(定性的な効果)</p> <ul style="list-style-type: none"> 交通の円滑化 ・歩行者・自転車の安全確保 <p>(3)事業の進捗状況 (令和 6 年度見込み)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>区分</th> <th>進捗率</th> <th colspan="2">内 訳</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>事業費</td> <td>28.7%</td> <td>(948 百万円</td> <td> / 3,300 百万円)</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">事業量</td> <td>道路工</td> <td>0.0%</td> <td>(0 m / 205 m)</td> </tr> <tr> <td>橋梁工</td> <td>0.0%</td> <td>(0 m / 133 m)</td> </tr> <tr> <td>用地取得</td> <td>48.1%</td> <td>(3,546 m²</td> <td> / 7,365 m²)</td> </tr> </tbody> </table>					B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR	1.8	2.8	3.7	7.3%	区分	進捗率	内 訳		事業費	28.7%	(948 百万円	/ 3,300 百万円)	事業量	道路工	0.0%	(0 m / 205 m)	橋梁工	0.0%	(0 m / 133 m)	用地取得	48.1%	(3,546 m ²	/ 7,365 m ²)
B/C (i=4%)	参考:B/C (i=2%)	参考:B/C (i=1%)	EIRR																													
1.8	2.8	3.7	7.3%																													
区分	進捗率	内 訳																														
事業費	28.7%	(948 百万円	/ 3,300 百万円)																													
事業量	道路工	0.0%	(0 m / 205 m)																													
	橋梁工	0.0%	(0 m / 133 m)																													
用地取得	48.1%	(3,546 m ²	/ 7,365 m ²)																													
事業の必要性	<p>評価</p> <p style="text-align: right;">継続が妥当</p>																															
【視点2】	<p>今後の事業の進捗の見込み</p> <p>用地取得率は令和6年度で約5割の見込みであり、整備に対する地元の期待も高いことから、引き続き事業進捗を図ることで、計画期間内の完成が見込まれる。</p>																															
	<p>評価</p> <p style="text-align: right;">継続が妥当</p>																															
【視点3】	<p>新たなコスト削減・代替案立案等の可能性</p> <p>隣接する工事区間における建設発生土の工事間流用など、工事費の削減を図る。また、ライフサイクルコストの削減を踏まえた橋梁整備を行う。</p>																															
対応方針(案)	<p>(1)対応方針(案)</p> <p>本事業を 【 継続 】 する。</p> <p>(2)理由</p> <p>用地取得率は令和6年度で5割の見込みであり、整備に対する地元の期待が高く、事業の投資効果も期待されることから、事業を継続する。</p>																															

費用便益比算出説明書

都市計画道路 田中青木線（貴船工区）
 （「費用便益分析マニュアル」国土交通省道路局 都市局 令和5年12月）

総括表

総便益 B	[街路事業を実施しない場合の経費]－[街路事業を実施した場合の経費]	5,193百万円
総費用 C	[建設投資額]+[維持管理費]+[道路構造物更新費]－[用地残存価値]	2,856百万円
B/C		1.82

総便益

○街路事業の有無による経費の差分
 供用後50年間を評価期間としているため基準年の年間経費に各年の割引率をかけ、便益を算出し、当該道路を整備しなかった場合と整備した場合の差を求め、総便益とする。

総便益

B = 街路事業によって発生する経費に対して、整備前後の差分
 = 1,142,332百万円 - 1,137,139百万円
 = 5,193百万円

※「走行時間短縮便益」:道路の整備により短縮された総走行時間の価値
 「走行経費減少便益」:道路の整備により減少した走行経費(燃料費、タイヤ費、車両整備費等)
 「交通事故減少便益」:道路の整備により減少した交通事故による社会的損失(人的・物的損害額、事故渋滞による損失額)
 表示桁数の関係で、計算値と一致しないことがある。
 ※1 交通需要推計の適用年次
 ※2 交通事故減少便益は「費用便益分析マニュアル(国土交通省)」の算定式により算出しており、条件によってはマイナス値になることもあるが、交通事故増加に繋がるものではない。

総費用

○建設投資額
 建設費用を算出基準年次の価値で評価するために各年度ごとに割引率をかけ、合計する。

○維持管理費
 整備延長に対する年間維持管理費用に割引率をかけ、供用後50年間を合計する。

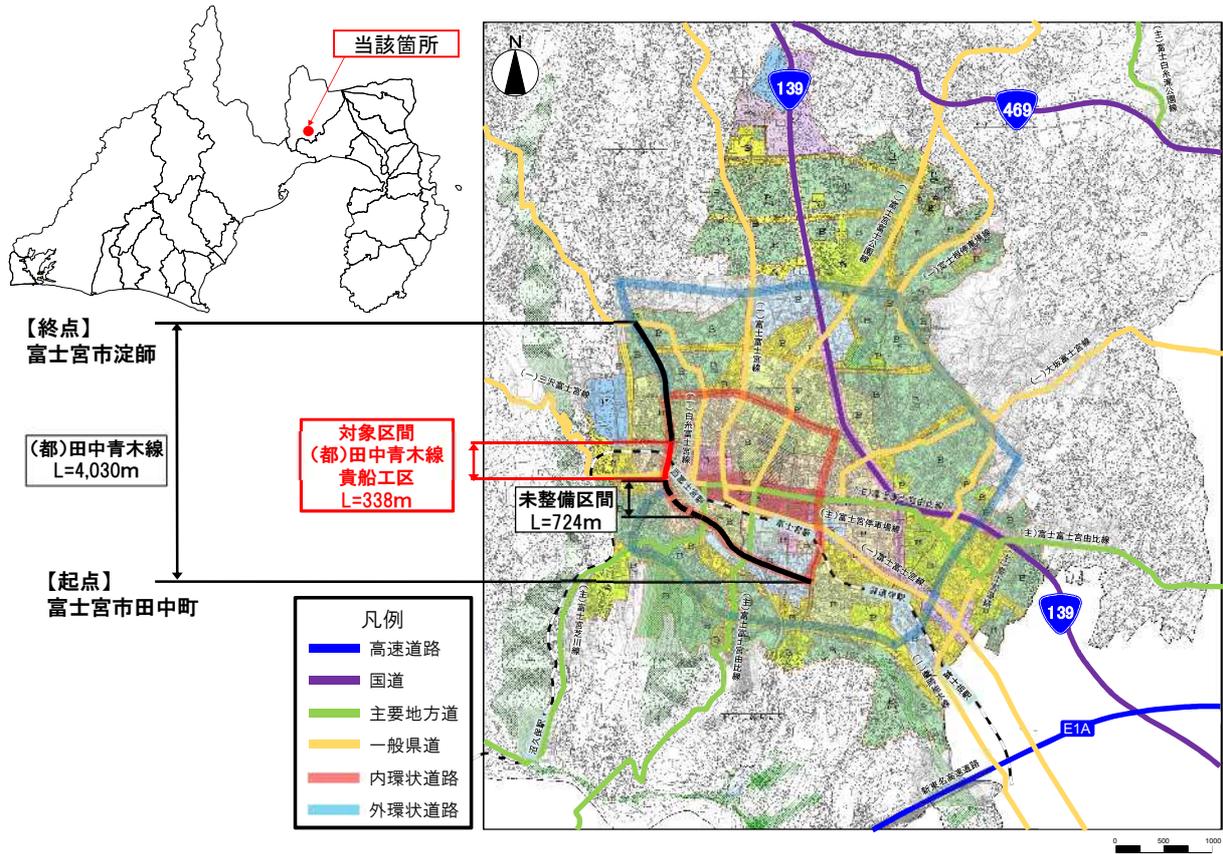
○更新費
 評価対象期間末までに耐用年数等に達する構造物がある場合に計上する。

○用地の残存価値
 評価期間後の残存価値を現在価値化したもの。

総費用

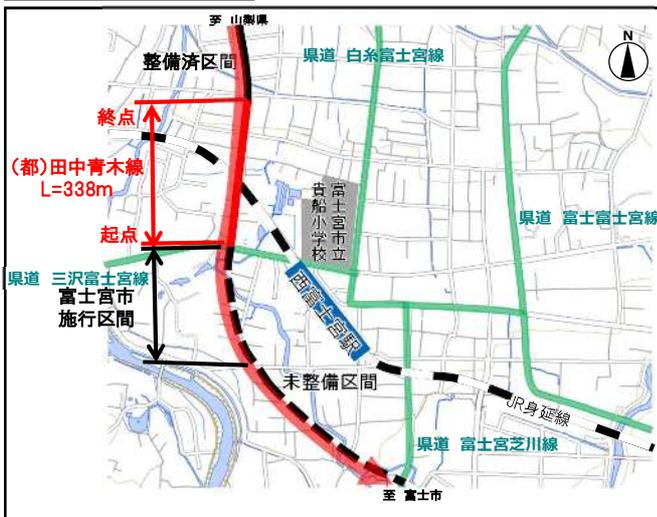
C = Σ 各年事業建設費 / (1+0.04)ⁿ + Σ 年間維持管理費 / (1+0.04)ⁿ
 + Σ 更新費 / (1+0.04)ⁿ - 用地の残存価値 / (1+0.04)ⁿ
 = 2,879百万円 + 15百万円 + 0百万円 - 38百万円
 = 2,856百万円

1. 事業箇所位置図



2. 事業概要

詳細位置図



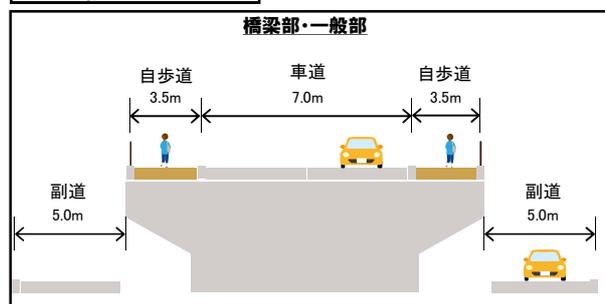
事業目的

- 鉄道を跨ぎ、環状道路の一部を担う本路線を新設バイパスで整備し、市街地の**交通の円滑化**を図る。
- 整備時に歩道も設置することにより、**歩行者・自転車の安全確保**を図る。

事業内容

- 事業期間 : 令和2年度～令和11年度
- 事業区間 : 延長 338m
- 道路幅員 : 24m
- 車線数 : 2車線
- 全体事業費: 3,300百万円

横断図



■イメージパース



■写真:周辺の踏切状況



3. 事業概要

区分	前回(R元)	今回(R6)	主な変更理由
①計画期間	—	R2~R11	—
②全体事業費	—	3,300百万円	—

4. 対応方針（案）

本事業は、

- 市街地を東西に通過する鉄道を跨ぎ、環状道路の一部を担う本工区を整備することで、市街地の交通の円滑化、歩行者・自転車の安全性の高い通行空間を確保する。
- 用地取得率は令和6年度で約5割の見込みであり、整備に対する地元の期待も高い。
- 費用便益比は(B/C)は、1.8である。

以上から、事業効果が大きい。



事業を継続する